春闘、本格的な段階に

企業整備を粉砕、賃金引上げを！

いよいよ春闘も本格的な段階にはいつた。資本家は労働者の一方的な犠牲で合理化を強行しようとしており、賃金引上げをみとめないばかりでなく、賃金の大巾な引下げ、首切りなどの攻撃をしかけてきている。一方勤評の強行実施や、安保条約の改定など一連の反動政治によつて、日本の未来を暗いものにしようとしている。

司会　私たちはいま春闘を闘つています。例年そうでありますが今年も大地評の各単産が手をとりあつて闘つていこうとしています。そのため本日は各単産の書記長、書記長さんに集つてもらい、いま敵はどういう攻撃をしかけてきているか、それにたいする私たちの闘う方針と路線などについて話合つてもらいたいと思います。

まず今年の春闘の特徴をみつめて見ると、大きくいえることは激しい企業合理化のアラシが吹きすさんでおり、このなかでの闘いであることが特徴でしよう。会社は「赤字」宣伝をして企業意識をうえつけ、階級的な闘いを弱めようとしているし、また不況をたてにして賃金ストップゼロ回答で労働者に対決してきている。政治的にみても安保条約改定が大きく取り上げられている。いま私たちは政治的要求も含め春闘を闘つているんですが、それぞれの単産でよくに企業合理化がどういう形であらわれており、どんな宣伝がされているかをはつきりさせてみたいと思います。

まず、三鉱から話してもらいましようか。

首切りと賃金引下げ

灰原　一人平均二千円の賃上げ要求がきまつた。ところが、そのころから三井では企業整備をやるということが新聞で報じられ一月十九日にだされたのです。いくつかに分けていうと、再建案の内容で問題になつているのは、一つは職制の支配を強化し復活させる。簡単にいうと出勤の予約をする、いまではやらせる権利があり、そのために賃上げをしなくてはならぬということを、わかりやすく現場に説明させています。だが、ねばやそれだけでは大衆は納得しません。というのは職場での考えは企業が賃金を支払うんだ、企業がよくなれば賃金も上るというかんがえが現存しています。こういう思想があるのに、執行部あるのは事実だが、私たちは生

司会　いまひとつおり組合に加えられている合理化の実体を話してもらうんですが、それと対決しながらこちらの要求である賃上げを叩きつけて、そのほかに、政治的な諸要求も加えた春闘を闘かつています。ところが敵の赤字宣伝、企業意識をうえつける諸宣伝が浸透しております。これを職場で取除いていきながら闘つていく活動が必要にいます。そういうことでかなり目覚めつつあると思います。

猿渡　ところで〝不況、不況〟というが、そこをわれわれの立場ではつきりさせる必要がある。

永田　経済の悪循環をいうんじゃないかな。

猿渡　彼らが結構、不況というのをつくりあげているんではないですか。会社の企業計画が間違つていて……。

大竅　神武景気であまり儲が、設備拡張をやり、投資過剰になつた。そのため生産は従来よりも倍加したがそれだけ売れないようになつた。それで〝不況、不況〟といつているのでしよう。

猿渡　それは労働者の責任ではありませんものね。

労働者に不況の責任はない

首切りのない社会主義社会に

生活を高めよう

司会　合成の場合も大きな企業転換をやらねばならないが、それも首切りはいまのところ考えていないが、組合が騒げばどうなるかわからないということを、会社がほのめかしていること。それから、見逃してならないことは三池炭鉱のコストを下げればよい、だから三鉱も「再建案」を認めなければならないということですね。

永田　染料は合理化という炭鉱のような形はでていないが、やはり資本を蓄積して独占を強化していく立場にたつた合理化は染料でもおこなわれていると思い

三井は不況に便乗

つぎは配置転換、これは労働組合を生かすも殺すもこれ一つでどんな活動家でも一人では活動ができません。これを離れ離れに分離配転して組合の骨抜きをやる。したがつて私たちは配転は単なる労働条件ではなくして組合運動にもつとも重要な基本問題であるのですから、組合と十分相談して行う慣行を確立させています。だがこれも会社の方針にしたがえと一方的な強制をしてきています。こういうふうに組合の自主的な主体性を損こそぎかつぱらつてしまい作業悪化の強制をしてきております。それから公休出勤、早出、残業の半分近い削減をいつてきております。私たちも勝手に残業しているわけではありませんが人不足で実績として残業があるわけです。これを半分か三分の一に削ろうとしています。これも係員、係長の指示という、職場支配の強化、復活を会社が確立しつつ経済的な条件を一方的に切下げることで一にかかつて組合の主体性を会社がかつぱらうことになります。

それに営繕関係も同じように減らすといつています。また勇退といつてご他化していますが、退職手当をある期間プラスしてやるからやめろというわけです。勇んで退くという勇退組は炭鉱の鉱夫にはあるはずがない。それにもかかわらずこういう風にスキあらば勇退という名目で退職を強要しようとしてきている過去五、六年間大牟田のいろんな労働者や組合のご協力を得てやつとここまできて、職場の民主主義を確立できる組合をつくつたが、首切り反対闘争以前のぐるになつている会社

大竅　今年の正月に中央職長が転勤しました。そのとき「合成は現状では首切りをするようなことはない。しかし将来企業転換という大仕事をかかえており、約三十億円の資金調達をやらねばならない。もし組合がそのままの状態ならば恐らく首切りはないだろう。だが賃金問題でさわげばこのままの状態ではないかも知れない」とほのめかしています。

いま、ほとんどの製品の七割八割を電産に売つているというのが実態です。再建案を考えなければならないといわれていますがはつきりしてはいません。

目標としては、製鉄業に切替える。がい炭俘を母体として新しい製鉄工場をつくるというわけです。その資金が三十億円いる計画らしい。

三井鉱山に再建案がでている、それが通ると電産も合成も炭価の引下げになつて採算が合つていくとデマつている。

騒ぐなとおどかす

司会　合成の場合、企業整備としては露骨な合理化はでていないが、資本蓄積で合理化をやつていく。企業競争に負けるから賃金引上げはできないということ労働者の犠牲で合理化をやつていくことがはつきりしてきたわけですね。製鉄はどうですか。

杉野　会社は合理化を何年も前から漸進的にやつてきていま一段落ついた恰好です。

ただ金属関係の会社では海外の相場と相当関係があり海外相場がずつと安い。いまはかなり各社とも輸出をしていますが、海外に輸出するにはコストを下げないと海外のものと立打ちができないから相当コスト引下げの努力もしているそうだ。出血輸出をしているそうです。

会社は「石炭さんは独占価格だかけよい。極端にいえば、組合は経営者とアベツク闘争もできるじやないか」といいます。金属はそこまで保護をうけていないから、業者独力で海外の競走をしている。だから他の産業みたいに賃上げもできませんという理屈なんですね。

永田　私が思うのに製鉄の賃金はあまり高くないでしよう。にも

労働者の犠牲で合理化強行

竪炉は労働者が生みだしたもの

かかわらず資本主義的立場に立つて営業をみた場合は相当よいと思います。というのは、浜には竪炉ができた。竪炉は労働者が働いて生みだしたものです。

杉野　あれは三十億円位い投資しているが、その分を私たちにまわすと相当賃上げできるわけだつたんですね。会社は国家百年のためにはそうしなければならないということで、六、七年前から会社の新しい製造法に切替えてきたわけです。どんどん生産もしてきたし、もうこれから先はいままで我慢していたのだから、こんどはわれわれに分け前をよこせといつているんですよ。

〔註＝竪炉とは竪形蒸油亜鉛製錬炉〕

司会　製鉄の場合は、会社は海外や企業競走のためにということで賃上げを押さえ、労働者の犠牲で一酷して合理化をやつてきたということがいえるわけですね。

自労のみなさんの場合は、資本主義社会でしいたげられているものの典型なんですが、直接的な合理化の攻勢がかけられており、これに抵抗して闘つていくが、莫大な失業者がふえているのに反面政府の予算をみると就労ワクはふえていないことからみても非常に大きな影響がでてくるということがいえるわけですね

中小企業の場合はどうですか。不況の影響を敏感にうけるわけですが。

黒崎　いま、賃上げを六つの会社に申入れているんですが、資金繰りが悪い、銀行から制限される。だから賃上げはできなく、苦しんでいるのです。私たちがいくと帳簿まで見せます。売掛金がなかなか回収できないことと、とくに長期の約手を一方的に握らされるから困るということ、中小企業の苦しい面ではないかと思います。中小企業の

失業者はふえている

司会　一口にいうと、金般的な合理化の攻勢がかけられており、これに抵抗して闘つていくが、莫大な失業者がふえているのに反面政府の予算をみると就労ワクはふえていないことからみても非常に大きな影響がでてくるということがいえるわけですね

中小企業の場合はどうですか。不況の影響を敏感にうけるわけですが。

黒崎　いま、賃上げを六つの会社に申入れているんですが、資金繰りが悪い、銀行から制限される。だから賃上げはできなく、苦しんでいるのです。私たちがいくと帳簿まで見せます。売掛金がなかなか回収できないことと、とくに長期の約手を一方的に握らされるから困るということ、中小企業の苦しい面ではないかと思います。中小企業の

飯尾　政府が新年度予算を組んで発表していますが、それによると昨年度の就労ワクと全然変わらない。失業者はふえないというのが、彼らのいい分です。だが現実はずつとふえてきています。

福岡県の場合は中小炭鉱がどんどんつぶれており、深刻な状態がでております。大牟田でもさいきんの失対登録者はふえており、電化などの臨時工の整理という恰好で、企業合理化は臨時工には深刻です。私たちはいままで就ワクをふやすことには一貫して闘つている。私たちが中心に、失業問題を取上げて闘つていくことにしています。とくに自労は賃金が低いし、これを引上げる闘いをやり、全体としての合理化、失業に反対する運動をやつていこうと今回の大行進を計画したわけです。

生活保護より低い賃金

司会　自労の一カ月の収入が生活保護よりも低い。それは労働者階級全体の力で闘い、解決しなければならない問題なのに、全体の問題になつていないということでしたが、これは全体の問題になつている会社

夫とともに果敢に闘う三鉱主婦会

企業整備を粉砕、賃金引上げを！

われわれは、いつさいの敵の攻撃をハネ返し、生活と権利、平和を守る闘いをつづけている。大地評では各単産の委員長、書記長さんに集つていただき、春闘を闘いぬくための座談会をひらいた。座談会ではかたい地区共闘と、全労働者が手をとりあつて、たくましく前進せねばならないことが強調された。

司会　三鉱にでている合理化は職制の支配復活、職制のにらみをきかすこと。さらに賃金の引下げ、首切りできているわけですね。それも赤字宣伝を大々的にやつた上に、非常に巧妙な手段できているというわけですが、同じような攻撃が化学関係にも出ていると思います。合成にはどんな形で表われていますか。

猿渡　私もそれがいいたかつた。イデオローギーを春闘ではうちだすべきだと思います。

司会　闘いの場合はへんに赤字や不況・好況の問題を議論するのではなくもつと高い眼、労働者の眼で闘いをみつめていかなければならないということですね。まつたくそうだと思います。そういう具体的な要求が春闘のなかにもりこまれていると思いますが実感として、ひつかりにくいものがあると思いますが、どうですか。

灰原　不況の原因は私たちには責任がないという確信をふかめる

司会　いまでも相当な利潤をあげていながら、三菱の賃金は合化労連の中では尻の方に近いのです。

これは余剰利益金を新らしい投資に振向けていきつつあり、例えば工場の中ではスレン工場（高級染料）をふやしていく。いままでの毛物、木綿ものの染料から化繊、ナイロンなどの染料工場をつくつていくなど、何億という金をそそぎこんでいる。そうしないと会社は三菱や住友企業競争に負けるからコストを下げ、企業を繁栄させなければならないのだから賃金は上げられないという生産性向上運動がすすめられていると思います。

生活保護より低い賃金

もつと責任を感じてやる気にならなければならないと思います大衆闘争といつても指導部がしつかりしなければなりません。

こんどの春闘の特徴は、私たちは

いがありますが、そのためにも勤評があれば私たちの運動がやれなくなるのです。

だから、私たちの賃上げにしろ権利を守るためにも、将来の子供のことを考えても勤評は絶対妥協ならぬと考えています。

1/3が八千円以下

飯尾　実は私たちはこんどの春闘には大きな期待をもつています最低賃金制の問題も総評の場で取上げられて闘うという点では期待をもつていたが、さいきんの動きをみると議会のもようなどから多少不安を感じています賃金は一率八千円を全国統一要求でだしていますが、総評でだした八千円の最賃を、自労の一番すくない所の賃金にもつていこうとしています。

総評のは十八才で八千円です。そうすると私たちの要求も八千円以下ではいけないというのが目標ですが、さいきんの内閣総理府の統計をみますと、日本の労働者で四千円未満をとつている人が百二十万人、六千円未満の人が二百十五万人、八千円未満が二百三十万人、合計五百三十六万人が八千円以下です。だいたい三分の一以下は八千円以下の賃金しかとつていないわけです。

他の統計をみても、日本の失業半失業数はほとんど変らない。逆にふえているのです。これは日本の特殊性でしよう。私たちは最下層の人たちと話し合つてなんとか賃金引上げをしなければならないと討論してきましたが、ここでぶちあたるのが官公労の人たちの賃金と生活保護の問題です。官公労の賃金は上からきめられてくるし、生活保護の基準は自労をみると、大牟田の場合平均賃金で二百八十円、女の場合三人家族だと生活保護のほうが、自労賃金より高いのです。

いま失対の四割以上が生活保護の基準よりもすくない賃金しかもらつていないということですだから賃金をひきあげないことには、どうにもなりません。これは最低賃金制と大きな関係があります。

さいきん私たちのなかにも、こういうことがいわれています。〝失対よりもきつい人たちがたくさんいる〟ということです。

こんなに問題になる層が日本の労働者のなかで半数をしめています。これは労働者全体としてなんとか引上げていくよう取組んでもらわなければいけないのではないでしようか。

もちろん、これには私たちが中心になつてやつているんですが賃上すればするほど庇護になるためか、まともに闘いにくい面もある。それで労働者全体が闘つていき、そのなかで私たちが積極的な役割りを果していくことを経験のなかから痛感しています。これがこんどの春闘では闘かわれるんじやないかと期待しているんです。